

# 山梨市の天気の違いについて

山梨県立日川高等学校 小俣愛（3年） 佐久間月菜（3年）

## はじめに

新聞で山梨市後屋敷地域に伝わる「八幡の鬼雨」と「萩原の乞食雨」という天気の違いについて書かれている記事を読んで、その言い伝えが本当なのか確かめてみようと思いこの研究を始めた。

## 研究した言い伝えについて

「八幡の鬼雨」…八幡方面（後屋敷地域から見て北西）からくる雲は激しい雨を降らせる。

「萩原の乞食雨」…萩原方面（後屋敷地域から見て北東）からくる雲は穏やかですぐにやむ雨を降らせる。



図1 峡東地域

## 研究方法

言い伝えを確かめるため、日川高校でタイムラプスカメラを使用して、天気の変化を撮影した。

### 撮影日・場所

2021年6月 日川高校体育館2階

2021年9月～ 日川高校4階物理室

2022年6月～ 日川高校体育館2階

撮影器具 brinno社 TLC2000

撮影時間 12時30分～18時45分頃

1. 雨の降りそうな日を天気予報で調べる。
2. タイムラプスカメラを北向きに設置し、雲の動きを撮影する。
3. 雨が降ったら雨の様子や、降った時間を記録する。
4. カメラの映像を見て、雲のきた方向を記録し雲がきた方向と雨の降り方に関係性があるのか確かめる。

## 研究結果

撮影日	降水時間	雨の様子	雲がきた方向	*1	*2
2022/6/8	15:00～	急に強く降りだしすぐにやんだ	西	0.5	東南東
6/21	17:00～	傘が必要ないくらい弱い雨	南、南東	4.5	南東
6/22	15:30～18:00	弱い雨	南、南東	5.5	西北西
7/6	18:00～18:15	夕立、急に強く降りだしすぐにやんだ	北	0.0	南東
7/7	18:00頃	夕立、急に強く降りだしすぐにやんだ	北	0.0	東南東
7/8	18:50～19:00	夕立、急に強く降りだしすぐにやんだ	北西	0.0	南東
7/11	15:30頃	夕立、急に強く降りだしすぐにやんだ	南西、西	0.0	南東

\*1 気象庁ホームページの勝沼のアメダスより

降水量 0.5 mm未滿は切り捨てのため 0.0 mm

\*2 気象庁ホームページの勝沼のアメダスより最大風向

塩山方面（北東）からくる雲による降水は、観察することができなかった。北、北西からきた雲は夕方（18:00頃）に短時間の強い雨を降らせた。西からきた雲は15:00頃に短時間の強い雨を降らせた。南、南東からきた雲は長時間の弱い雨を降らせた。

## 考察

八幡方面からくる雲は、夕立のような激しい雨を降らせた。それには風向と地形が関係しているのではないかと考えた。

### ① 風向

雨が降った日は、勝沼アメダスによると、最大風向が南東、東南東、南南東であり、八幡方面に向かって吹いていた。7月6日、7月7日の映像では、撮影中、北からの雲の流れが確認できたが、雨の直前に東から南東からくる下層の雲の動きを確認できた。このことから、八幡地域で発生した雨雲と南東から風によって運ばれた雲がぶつかり、夕立を降らせる積乱雲ができるのではないかと考えられる。

一方で、南、南東で発生した雨雲は乱層雲を形成し、長時間の弱い雨を降らせるのではないかと考える。

### ① 地形

言い伝えが伝わる後屋敷地域は周りが山で囲まれた盆地の中央に位置するため、山沿いで形成された雨雲が流され激しい雨をもたらすと考えられる。八幡地域、萩原地域ともに後屋敷地域から見て北西、北東にあり、その後ろに谷をもつ。その谷で発生する雨雲についての言い伝えであると考えられる。八幡地域と塩山上萩原付近の地域の谷に沿って断面図を作成し、比較すると八幡地域は急な坂になっていることが分かる。2つ地域における降水には、この地形の違いが関係しているのではないかと考えた。

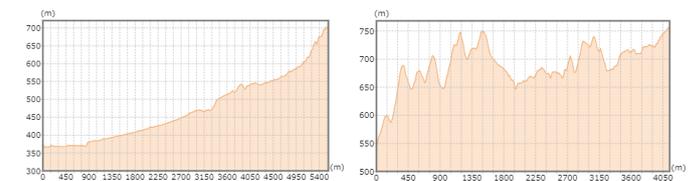


図2 地形断面（左：八幡地域、右：塩山上萩原付近）  
地理院地図より作成

## 終わりに

「八幡の鬼雨」を確認することができたが、「萩原の乞食雨」は観察することができなかった。今後さらに雨の降り方と風向、地形の関係について調べていきたい。また、萩原方面から降る雨と雲の動きを観察し、二つの地域の地形の違いにも着目して「萩原の乞食雨」についても明らかにしたい。

## 参考文献

山梨日日新聞（2021.5/25）

日本気象協会 tenki.jp【公式】 / 天気・地震・台風  
<https://tenki.jp>

気象庁過去の気象データ検索 <https://www.data.jma.go.jp>